

展示見学ポートフォリオづくりの講座実践

はじめに

生命の星・地球博物館は、1995年開館当初より展示室での撮影を原則自由としています。開館当初、展示室での撮影は珍しいものでしたが、近ごろでは、デジタルカメラ（以下、デジカメ）、携帯電話、スマートフォン等で、多くの方が展示室での撮影を楽しんでいます。このような状況を見て、「撮影」という行為を展示見学に活かさないだろうか、とずっと考えていました。その可能性のひとつが「カメラに自分自身の体験を記録する」です。フィルムの枚数を気にする必要のない今、自分の体験のメモとして、デジカメ等に画像を記録することは一般的になった感があります。一日、行楽地で楽しんできた時、もちろん楽しいことを思い出すことができるでしょう。この時、自分が撮影した画像があれば、より具体的に自分自身の体験を思い出すことができます。博物館でもデジカメ片手に展示見学を楽しむことで、その画像記録によって、自分の博物館体験を可視化できるのではないかと考えました。幸いに、2014年度より科研費による研究（課題番号 26350395）「博物館体験を共有するパーソナル・ポートフォリオ学習の実践」において、展示見学ポートフォリオづくりの講座を実践することができました。博物館での一日ワークショップとしての実践ですが、今後は学校団体の校外学習への発展も期待できるものです。どのようなプログラムか、この誌面で紹介したいと思います。

展示見学ポートフォリオづくり

この活動のねらいは、展示見学時に撮影した画像を、自分自身のふりかえりの材料とすることです。撮影という行為に注



図1 デジカメ片手に展示見学。

力し何を見てきたのか覚えていないという危惧はあるものの、自由見学の際、個別的な博物館体験が、撮影画像に表現されると考えています。展示見学時に一連の撮影を行い、その画像を整理し、まとめたものをポートフォリオとよび、自分の視点を含む学習材料とすることを目標とします。具体的には、つぎの手順にて講座をすすめています。

(1) デジカメ片手に展示見学

普段どおりに展示を見ることが基本です。違うのはデジカメを持っているということ。「おやっ!」と自分が何か反応したときにシャッターボタンを押し撮影していきます（図1）。注意すべきことは、この展示見学は写真撮影が目的ではないということです。自分の見学、つまり自分の体験のメモ記録であることの確認が重要です。後で自分が思い出す材料となればよいのですから、きれいな写真を撮る必要はありません。撮影に凝る必要はないわけです。関心を持ったものがわかればよいのですから、多少ぶれたり、ピントがはずれたりしても大丈夫です。撮影という作業を意識せず、できるだけ普段どおりの自然な見学を心がけることのほうが、難しい作業かもしれません。また、どれくらいの頻度で撮影をすればいいのかわからないという面があります。ずっと連続で撮影すると、それは動画とおなじになってしまいます。やはり、自分が「おやっ!」と反応したときを捉える感覚が重要でしょう。

見学場所は、1階常設展示の地球展示室および生命展示室とし、見学時間は、40分～60分程度（基本は45分）としています。この時間は少々短いと思われるかもしれませんが、後の画像の切り貼り作業等をふまえると、まずは60分以内とするのがよいかと思います。

(2) 撮影画像のプリントアウト

展示見学を終えたら、カメラを回収。ポートフォリオシートに貼る画像のプリントアウトです。45分間の見学といえど、撮影枚数が100枚を超える人もいます。プリントのサイズは、大きすぎず小さすぎず、

A4やA3用紙を有効に使える大きさがベストです。いくつかの試行の結果、40×27.5mmのサイズの画像をインデックスプリントする方法に落ち着いています（図2）。また、ここでの特記は画像とあわせての撮影時刻の印字です。撮影時刻をわかるようにすることで、展示室での撮影画像が自分の活動のログとして可視化されます。ニコンのフリーソフト「ViewNX 2」または「ViewNX-i」を用いて、カラーレーザープリンタ（A3サイズ）に画像をプリントアウトしています。

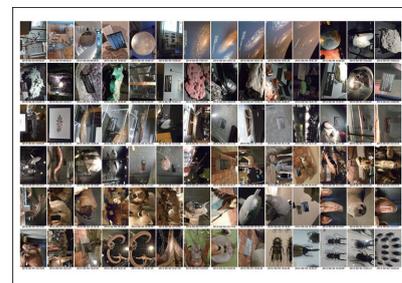


図2 A3用紙に撮影時刻とともにプリント。

(3) ポートフォリオシートへの画像配置

一枚のシート（模造紙など）に撮影画像を貼り、全体を俯瞰できるポートフォリオをつくります。画像の配置はいろいろなパターンがありますが、ここでは撮影した画像の時系列を基準としました。印字された撮影時刻を基に画像を配置、シートに貼るといふ、いわば機械的な処理作業です。画像を見つ切り貼りする手作業は楽しい時間にもなります（図3）。

時系列を基にした画像の配置として、見学時間を5分間刻みにし、それぞれの5分間に撮影した画像を積み重ねた一本の帯にまとめ、横軸5分間隔の時系列とし配列するという方法をとっています。画像でつくるグラフのようなものです。つまり、



図3 画像を切り貼り。

縦軸に5分間に撮った枚数、横軸に時間として、画像を配置したグラフとなります。撮影した順番、5分間あたりの枚数の増減が一目でわかります。5分間隔の画像の間には、後でメモ欄として使えるように余白スペースをとるようにします(図4)。



図4 模造紙等に画像を5分間区切りで並べる。この例は見学時間が35分。

(4) 展示見学ポートフォリオづくり

画像配置のつぎは、ポートフォリオシートに展示見学メモの記入です。写真を撮影した「おやっ!」と思ったときのことを思い出して、メモしていきます。どうして撮ったんだろう? と思わせないときもあるかもしれません。写真と関係なしに展示見学で印象に残っていることを書き込んだり、ベストショットの写真に印をつけたり、という記入の工夫も有用です。1枚1枚の撮影のことだけでなく、シート全体を見渡して、自分の興味関心の傾向を見つけるといった見方もできるでしょう。スゴイと思ったこと、疑問に思ったこと等等、写真をグルーピングしての分析も新しい気づきにつながります。とにかく、多角的に写真を見て、気づいたことを書き込んだり、分析したりしていきます(図5)。児童や生徒がこの作業にはまり、30分も40分も集中して書き込み作業を続ける場面を何度も見ました。頭がフル回転する充実の時間となっているのかもしれない。



図5 タイトルつけもあり記入作業に集中。

(5) 展示見学ポートフォリオの共有

デジカメ片手に展示見学からはじまりポートフォリオづくりまで、ずっと自分ひとりでの作業が続いてきましたが、ここからは協働作業です。あらかし展示見学ポートフォリオができあがったら、他の人との共有を行います。まずは、2人1組のペアとなり、それぞれ自分のポートフォリオを交換し、相手のポートフォリオの読み解きをします。まだ、会話のスタートではありません。相手がつくったポートフォリオをひとりで詳しく見ていきます。写真やメモを読み、相手がどのように展示を見たのか、どのような展示物に興味関心を寄せたのかを考えながら、詳しくポートフォリオを見ていくのです。同じ展示を見ながら、自分とは視点が異なるなど、いろいろな気づきがあることでしょう。

相手のシートを読み終えたら、ようやくペア同士での会話です。それまで、ずっと静かだった部屋が、ここでわっと賑やかになります。このプログラムのハイライトなのではないかと思っています。たいてい笑顔で、ワイワイと対話が続いていくのです(図6)。上手く解釈はできないのですが、この時間は重要な意味を持つものと感じています。

ひとりの人との対話だけでなく、発表形式でのポートフォリオ紹介を取り入れることで、より多くの人の展示見学体験を共有することができます。他者のポートフォリオからのヒントを、自分のポートフォリオに追記することなどは、より内容を充実させるものとなります。



図6 お互いのポートフォリオから展示体験を語り合う楽しい時間。

デジカメ記録による展示見学ポートフォリオの効果と展望

これまで、小学生をはじめ、中高生、大学生、教員を対象に上記の展示見学ポートフォリオづくりを試行してきました。子どもも大人も関係なく、それぞれに展示見学を楽しみ、ポートフォリオをつくり、集中した時間を持ってきました。自分が撮影した写真が基になる活動です。主体である自分の「体験」を深くふりかえり、自分で自分の評価をすすめることとなります。そして、「博物館に行ってきたんだって、どんなだった?」という質問に対して、自分のポートフォリオを前に誰しもが雄弁に語るできるようになっているのです。

展示見学ポートフォリオは、これからの「学び」を育てる上で大きな可能性を持っているように思います。その方法は、いろいろあることでしょう。そのためには、まだまだ試行を繰り返し、改善が必要です。

現在、手持ちのデジカメは30台ですから、30人がデジカメ片手に展示見학을1度にすすめることができます。あと10台追加すれば、1クラスの対応も可能になります。2人で1台使うという方法もできます。展示見学ポートフォリオづくりが学校団体等に広まることを期待しています。しかし、校外学習、いわゆる遠足の限られた時間内で展示見学ポートフォリオづくりを行うには無理があります(図7)。展示見学時にデジカメを貸し出して、画像データやプリントを学校へ送るという対応で、ポートフォリオづくりを教室で行うことが可能になるでしょう。

博物館での学習項目を定めない自由な見学をベースとしつつ、そこから協働的な学習へとつなげていくことが期待できます。そこに「新しい学び」の大きな可能性があると感じています。

謝辞：博物館実習、講座、職場体験、教員研修等で多数のみなさまに、展示見学ポートフォリオづくりの試行に協力いただきました。深謝します。

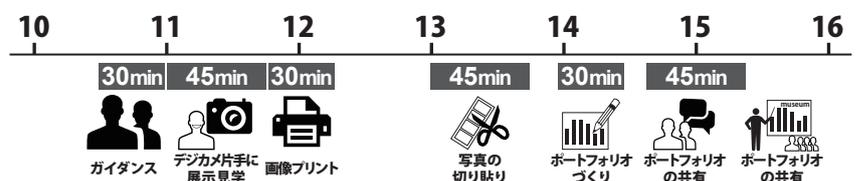


図7 ポートフォリオづくり講座のプログラムスケジュール。